

発行所 東海地方会ニュース編集事務局 〒530-0001

大阪府大阪市北区梅田 3-3-10 梅田ダイビル 4F 株式会社 JTB コミュニケーションデザイン ミーティング&コンベンション事業部内 FAX:06-6456-4105

発行責任者 斉藤 政彦

題字 皿井 進筆

巻頭言

-学術発表の場としての学会の役割-

名古屋市立大学大学院医学研究科環境労働衛生学分野 上島通浩



私たちにとって、学術発表の 場としての学会の意義は何でし ょうか?

誤解を恐れずに書けば、研究 推進に力点をおく大学・研究所 では、研究者の業績という視点

で見たとき、学会での一般演題の発表はポイントとしてたいしてカウントされません。発表後の引用のされやすさや文献検索してくれる人の広がりという面では、学会発表と論文とでは、将来に向けて生命が吹き込まれるエビデンスとしての力に大きな違いがあります。論文が採択されるためには学会発表時の何倍ものエネルギーが必要で、そうした力が業績主義を貫く大学の評価の対象となるわけです。でも、こうした点にのみ注目すると、学会の持つ重要な側面を見落とすことになってしまいます。

先日、ある学会にでかけ、ふだん聞くことのないさまざまな話題に触れる中で、気がついたらいろいろと研究のアイデアを巡らせる自分がいました。発表する側はデータをまとめる中で、未知だったことがわかってストーリーが見えてくる、それを聞く側は新しい概念に触れて触発される、そして質疑応答を通じてサイエンスに関する問題意識がぶつかりあい、その場にいる皆が何らかの考えを持つ、そういったダイナミックな思考の交換が学会にはあります。若い発表者は、口頭発表に向けて緊張感を持って準備することで成長しま

す。これこそ学会の役割のひとつでしょう。

加えて、シンポジウムや教育講演等にみられるように、学会には確立した知識の普及、また、社会への還元という役割もあります。そして学会は、その学問領域に従事する研究者・専門家が、研究内容・専門性や人となりを相互に認知する場でもあります。

まとめると、オリジナルな一般演題の発表が学会の 中心であり、そして会員のニーズに応えられる学会で あることも重要です。学会の機能の充実に向けた貢献 に会員全体で取り組めればと願っています。



開催報告

平成 29 年度東海地方会総会ならびに研修会

ヤマハ発動機株式会社 健康推進センター 内野文吾



平成29年7月1日、サーラシティ浜松3階多目的ホールにて、平成29年度日本産業衛生学会東海地方会総会ならびに研修会が開催されました。今回は浜松での開催にも関わらず、100名を超える多くの方にご参加いただきました。

はじめに総会が行われ、新執行体制になり最初の総会となりましたが、議事については滞りなく進行し、平成 28 年度事業報告と決算、平成 29 年度事業計画・予算案のいずれも承認されました。

研修会については、斎藤地方会長はじめ事務局から助言をいただき、テーマを「ストレスチェックからはじめる職場環境改善」といたしました。平成27年12月のストレスチェック制度の施行以降、個別調査は多くの事業所で実施されるようになったものの、集団分析と職場環境改善には手がついていない事業所が多く、メンタルヘルスの一次予防という本来の目的を達成するためには、職場環境改善実施のきっかけとなるようなプログラムが期待されていると考え計画しました。

最初の講師は労働安全衛生総合研究所過労死等調査研究センターの吉川徹先生でした。研究テーマとして取り組まれてきた参加型職場環境改善活動が、様々な側面から従業員の健康改善に寄与するというエビデンスが得られつつあることが紹介され、ストレスチェック制度を活用して改善活動を行う場合、改善主導者の立場により取り組みは異なること、集団分析結果は注意して取り扱うべきとの指摘がなされました。終盤には過労死問題についても触れられ、国民の問題として



総会での地方会会長挨拶



吉川 徹 先生

向き合わなくてはいけない時が来た、との意見が印象 的でした。

次の講師は、パナソニック株式会社エコソリューションズ社産業医の田中宣仁先生でした。以前から職業性ストレス簡易調査票を用いた集団分析を実施されていたものの、社内で展開するにあたり結果の解釈が複雑でわかりにくく、改善活動にもつなげにくいとの意見が出ていたそうです。そこで、シンプルに結果の解釈ができ、次のアクションに繋げるための活用法についての責任者教育を展開した取り組みについて、当日収録された動画も交えて紹介いただきました。内容は、調査票のどの質問がどの要因に関連するかを網羅する徹底ぶりで、受講者からは高い評価を得られた良好事例でした。結果をただ示すだけではなく、組織に伝わる説明を行うことで、活用の幅が広がることをお示しいただきました。



田中 宣仁 先生



長原 智子 先生

最後は、東海旅客鉄道株式会社静岡健康管理室産業保健師の長原智子先生で、平成21年から実施してきたストレスチェックの活用の模索の経緯について、ご紹介いただきました。ここでの特徴は、ストレスチェックだけを別に取り上げるのではなく、健康診断結果と合わせて心身両面の健康づくりとして展開を行ってお

り、なおかつ結果返却時に管理者と意見交換を実施するなど、きめ細かな職場サポートをプロジェクトとして推進されていることでした。人事労務など他部門との連携も図られており、健康管理スタッフのアプローチが個から集団へと広がったということで、大きな成果を挙げておられました。

以上の先生方の講演から得られたことは、職場改善活動は取り組むべき十分なエビデンスがあること、ストレスチェック制度はただ実施するだけでは活用が難しく、情報を受け取る側の立場にたちコミュニケーションを図っていくことが重要であるということです。それには努力が必要ですが、推進すれば組織のリスク低減のみならず、健康度の改善に大きく寄与できる可能性も秘めていることを教えていただきました。

事業計画の見直しに伴い、総会並びに研修会という形での行事は、今年度で終了となります。今回の研修会が皆様の今後の活動に良い影響をもたらすことを期待し、また地方会の企画する研修会がますます発展していくことを願い、結びといたします。





会場風景

活動報告

学術研究の助成を受けて

ヤマハ(株)人事部環境安全グループ 保健師 影 山 淳



東海地方会の皆様、初めまして。ヤマハ株式会社の影山淳と申します。 このたび、東海地方会学術研究推進委員会のご支援を賜り日頃の産業保健活動についての調査研究を論文として公表することができました。私の活

動をご紹介します。

私の所属するヤマハ健康管理センターでは健康診断の際に全従業員に健康教育を行っております。先輩が作って下さった組織のヘルスリテラシー向上を促す仕組みの効果を自分で確かめたいと思ったのが最初の研究動機でした。研究の知識も経験も不十分な私をいつも傍らで支援してくださるのは共に働く産業医の先生方です。助言を受け研究のステップを学び、教育効果を検証することができました。最初のチャレンジの後も1年に1つのペースで健康施策の評価や対象集団の問題の把握と改善に向けた調査研究を続け、学会の場や論文にして発表しています。最近は英語論文にもチャレンジし、学術研究推進委員会に英文校正費と論文掲載費についてご支援をいただきました。ありがとうご

ざいました。

調査研究により産業保健活動の見える化をすると、活動の評価や課題の検討ができます。また、一般職上司の看護職の役割の理解にもつながります。私は経験が浅いため、まだ実現できていませんが、日頃の産業保健活動が従業員の健康、その先の経営に実際どう関連しているか示すことができると社内での活動の幅を広げられるだろうと考えています。調査研究をもって産業衛生活動を展開し、事業者の健康経営や労働者の持てる力を発揮できる職場風土の醸成を後押しして労働者の積極的な健康づくりを支援することが目下の目標です。

最近では、データ分析に関する研修が多く開催され、 学術面や資金面での支援も充実し、看護職が研究に取り組みやすくなっています。同時に、現場で働く看護職が職場をフィールドに調査研究をすることの価値の高まりを感じます。労働者に直に接する機会の多い看護職だからこそ聞くことができる現場で働く人の声、そこから感じとる労働者が抱える問題を組織的に解決するためにはどうしたらいいのか、今後も調査研究を通じて検討していきたいと考えております。今後も御指導の程よろしくお願い申し上げます。



学術研究推進委員会より

産業保健現場で調査研究を行いたい方、支援する方を募集!

産業保健現場において、自社の従業員の健康のために、またその知見を広く働く人々の健康に役立てるために、調査研究を行いたい方はいませんか。調査研究の内容としては、グッドプラクティスの報告や、データに基づき現場の産業保健活動を改善するためのものも歓迎します。

普段、そのようなことを一緒に考えてくれる方や、統計解析方法・発表のまとめ方などの指導をしてくれる方が身近にいない産業保健現場の会員を、他の会員が支援することによって、地方会学会や全国学会・協議

会等での発表などを目指しています。

現時点で写真の9人で分担して支援をします。支援 をしていただける方も募集しています。

詳しい内容についての問い合わせや、申し込みは、 学術研究推進委員会 委員長 尾島俊之

(ojima@hama-med.ac.jp)

同 副委員長 山本 誠

(makoto.yamamoto@music.yamaha.com) までどうぞ。



尾島 俊之 (浜松医科大学健康社会医学講座)



---- 山本 誠 (ヤマハ健康管理センター)



榎原 毅 (名古屋市立大学環境労働衛生学)



小林 章雄 (医学と社会・連携支援機構)



榊原 洋子 (愛知教育大学保健体育講座)



柴田 英治 (愛知医科大学医学部衛生学講座)



白石 知子 (中部大学生命健康科学部保健看護学科)



巽 あさみ (浜松医科大学地域看護学講座)



塚田 月美 (パナソニック(株) エコソリューションズ社)

教 室 紹 介

三重大学大学院医学系研究科 公衆衛生・産業医学分野

监 島 茂、森 田 明 美、山 﨑 亨、池 田 若 葉

三重大学医学部の公衆衛生学講座は、1955(昭和 30) 年、故吉田克己名誉教授が着任して開設されまし た。この頃日本は高度経済成長時代に突入し、三重県四 日市地区にわが国最大規模の石油コンビナートが立地 されました。このコンビナートは操業初期から工場排 水による海産物の汚染、「異臭魚」の発生が見られ、そ の後、よく知られた四日市地域の大気汚染という大き な社会問題となり、喘息等の慢性閉塞性肺疾患患者の 多発との間の因果関係の研究が講座の研究の柱となり ました。この両者間の因果関係を疫学的に証明し、さら に県を指導してわが国で初めて汚染物質 「総量規制」制 度を施行させ、大気汚染の劇的な改善を導いた吉田教 授らの業績は、現在でも世界的に高く評価されていま す。吉田教授の退官後、1986年に故今井正之教授、 1991年に山内徹名誉教授、2003年には横山和仁教 授が着任して、教室の伝統的テーマを継承し、環境汚染 と健康被害について国内外での調査研究に取り組むと ともに、四日市大気汚染を克服した科学と技術を他の 国々に技術移転することに大きな役割を果たしまし た。また、環境汚染問題のみではなく、神経毒性研究、 産業保健や精神保健分野の研究でも大きな業績を残し てきました。

2010年に現教室を主宰する笽島茂教授が着任し、現在は教授・准教授・講師・助教の教員 4名、事務スタッフ4名、留学生を含む大学院生6名が教育・研究に取り組んでいます。附属病院には、笽島教授をセンター長とする、疫学センターも設置されています。

研究は、他大学、企業、臨床講座等と連携して大規模

な疫学調査を実施し、様々な社会環境要因と疾病との 関連について検討しています。「労働時間がストレス関 連疾患に与える影響」では、最適な労働時間は存在する か、をテーマに、労働時間と冠疾患、脳卒中、外傷など との関連を分析しています。「中間周波に係るばく露量 モニタリング調査や妊婦や胎児への影響」では、IH な どが発する電磁波が流産や誕生後の児の発達に影響す るかどうかを調べていきます。また三重県内の市町と 連携して、行政ビッグデータを活用し、地域医療構想へ の提言を行うなど、地域の健康づくりにも貢献してい ます。歴史的にも、地域(コミュニティー)を対象とす る地域保健と職域を対象とする産業保健が大きな構成 分野であり、それらを継承するとともに、新しい視点 で、公衆衛生・産業医学における研究を進めています。

教育面では、社会医学の基礎を修得し、公衆衛生マインドを持った医師を育成するため、学部教育の充実を図るとともに、本年度後期より大学院に公衆衛生学コースを新設し、さらには社会医学系専門医養成プログラムの設置も計画中であり、地域での公衆衛生実践者の指導にも力を入れています。

将来、三重大学をはじめ国内外の大学・研究機関で活躍できる国際的競争力のある研究者・教育者の育成を重視しています。当教室ではバックグラウンドの知識にかかわらず、公衆衛生・産業医学に興味を持ちかつ意欲のある人材を広く募集していますので、興味を持たれた方は、ぜひ、ご連絡ください。

教室ホームページ

http://www.medic.mie-u.ac.jp/pubhealth/



会員の声

新理事就任のご挨拶

医療法人 Respect 浜松アクトタワー青山歯科室 青山 行彦



この度、東海地方会の理事に就任しました。1994年から、出身地の浜松駅前のオフィスビルで歯科医院を開業しています。また、愛知学院大学歯学部歯周病学講座と愛知医科大学病院歯科口腔外科に在籍しており、平

日は名古屋の自宅から浜松を新幹線通勤の毎日です。

最近のサプライズは、小中学校の友人、天野 浩君 (名古屋大学)のノーベル賞受賞です。もちろん、私が 本学会理事に選出されたこともですが。

これまで、ビル内外の企業の方の歯科診療や周辺企業の歯科検診や保健指導等を通じて、産業歯科に携わってきました。97年に産業歯科医(日本歯科医師会認定)、99年に労働衛生コンサルタント資格を取得しました。

その実績が評価され、「職域における口腔保健活動」

として、平成 12 年度浜松市医療奨励賞を授与されました。また、2007 年の産業医・産業看護全国協議会では、「産業歯科保健における職種間連携について」をテーマに、シンポジストをさせて頂きました。

私の歯科専門領域は「歯周病」と「老年歯科」です。 この分野は今後の社会高齢化により、生活習慣病に伴い、糖尿病や誤嚥性肺炎などの全身疾患とも密接に関係することが予想されます。また、閉塞性睡眠時無呼吸症候群(OSAS)に対して、当院でもスリープスプリント治療による改善を経験しています。

職域においては、先制医療としての「口腔保健」の積極的導入により、生活習慣病の 1 次予防や健康増進につながることを期待しています。

東海地方会の皆様には、これまでも友好的に接して 頂き大変感謝しています。歯科医師としての新任理事 の立場で、微力ながら貢献したいと思います。今後とも よろしくお願いします。

新理事就任のご挨拶



このたび東海地方会理事を拝命いたしました JSR 四日市工場の古田と申します。2003 年から専属産業医として従事しております。

JSR 株式会社は、1957 年 「日本合成ゴム会社」として設立さ

れました。当初は合成ゴムや樹脂の生産が主体でしたが 1970 年代から半導体・ディスプレイ・光学材料へと拡大し、最近ではライフサイエンス分野(診断試薬材料など)、蓄電デバイス分野に注力しています。化学素材メーカーにて弊社製品を直接目にすることはありませんが、低燃費タイヤや電子材料など世界市場のトップシェアを占めているようです。

弊社主力工場の当事業所は四日市石油コンビナートの一角にあり、名古屋ドーム約10個の敷地内で社員約2000人が研究から生産まで行っています。その片隅の診療所で嘱託産業医1名、産業看護師2名を含む

JSR 四日市工場 産業医 古 田 さとり

産業保健スタッフ 4 名が四日市工場及び関連会社の産業保健を担当しています。生活習慣病予防、メンタルヘルス、喫煙対策を健康施策の 3 本柱としていますが、特にタバコに対しては以前から寛容な風土があり、あちらこちらに喫煙所が設置され喫煙率も半数に近い状況でした。世の流れと共に JSR 禁煙デーを設けるなど啓発活動を始め、売店での販売禁止、タバコ自販機の撤廃、診療所での禁煙補助剤斡旋などタバコ対策を進めています。 2013 年ヘビースモーカーだった当時の工場長が禁煙宣言、そして貼付剤で見事達成されたことは禁煙推進の大きな契機となりました。まだまだ道のりは遠そうですが、いつか敷地内禁煙と思っております。

このようにスタッフと試行錯誤しながら修業を実感している日々ですが、少しでも東海地方会に貢献できるよう微力ながら努めて参ります。よろしくお願い致します。

新理事就任のご挨拶

藤田保健衛生大学医学部 公衆衛生学 内藤久雄



この度、日本産業衛生学会 東 海地方会理事を拝命いたしました藤田保健衛生大学・医学部・ 公衆衛生学の内藤と申します。 日本産業衛生学会には、2003 (平 15)年度に入会し、名古屋大 学大学院・医学系研究科・環境

労働衛生学にて、那須教授の指導もと化学物質の代謝や脂質代謝に関与するペルオキシソーム増殖剤活性化受容体 (PPAR) α遺伝子多型とコレステロール代謝との関連の分子疫学研究を行ってきました。その後、同教室の助教を経て、2015年1月より現職についています。名古屋大学時代から、非アルコール性脂肪性肝炎(NASH:動物実験)や有機溶剤トリクロロエチレンばく露による皮膚肝障害(中国での疫学研究、動物実験)のメカニズム解析の研究に関わっています。また、多く

の先生方の指導のもとでリスク評価・管理の研究にも関わっています。当学会でも、これら研究課題の発表を行わせていただいており、本年度より許容濃度等委員会の起案委員として活動しています。その他にJ-MICC研究(大幸研究)や愛知職域コホート研究にも加わっており、これらの研究結果を実社会に還元できるよう努力したいと思っております。

藤田保健衛生大学では、産業保健・公衆衛生学の講義を担当し、従来の産業保健だけでなく、産業・環境・食品保健などで近年問題となった事例などを例にリスク評価・管理についての実習を行っています。そうした教育を通して、臨床と基礎をつなぐ社会医学の重要性を医学生に伝えることができるよう努力しています。理事として微力ながら、産業保健全体の発展に貢献できればと思います。皆様のご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

雑感



労働安全衛生コンサルタントをしております北山勉です。 私は、大学卒業以来、化学企業に35年ほど勤めたのち、プチ早期退職して、コンサルタント事務所を開き、現在に至っています。他に環境省の事業である「化学

物質アドバイザー」をしています。

化学物質アドバイザーは、市民、企業、行政からの要請に応じて、「化学物質」や「化学物質による環境リスク」に関する疑問に分かりやすく答えたり、関連する情報を提供することにより、化学物質に関する理解のお手伝いを役割としています。具体的には、リスクコミュニケーションにおける化学物質の解説者(インタープリター)、勉強会の講師などがあります。

この化学物質アドバイザーをしていることもあって、化学物質に関する事案の業務依頼が多くなっています。

労働安全衛生コンサルタント 北山 勉

そんな中、一昨年から林野庁事業で林業事業体の安全衛生診断をしており、これまで10の林業事業体の診断をしてきました。

この中には、従業員 50 人未満の小規模事業体が多く、産業医・衛生管理者の選任義務は無く、従業員 10 人未満の事業所においては、衛生推進者の選任義務がありません。

また、法定の管理者を選任したとしても、実際に安全 衛生活動ができる人員を割けないことが小規模事業所 のネックとなっていると思います。

したがって、東海地方会規約の目的に「本会は東海地方を基盤とし、産業衛生の進歩をはかる・・・」とありますが、この「産業衛生の進歩」の結果を届けるチャネルが無い事業体も少なからずあるということを痛感しています。

そこで、今後は、このチャネルとなる道を探っていきたいと思っています。

新入会員のご挨拶

東芝テック (株) 静岡事業所 産業医 新 坂 真 理



初めまして。東芝テック(株) 静岡事業所常勤産業医の新坂真 理と申します。1998年産業医 科大学卒業後、研修医中に同業 者と結婚、娘を出産。その後は勤 務地の都合で主人と別居して、 娘を抱えながら健診機関でお世

話になりました。途中家族一緒に暮らし始めましたが、朝5時半に娘を起こし6時半に預けるといった生活をしていたところ、娘の心に影響がみられたため思い切って仕事を辞め、主人の異動(九州を拠点に一番遠くで福島)に伴い転々とした生活を送ってきました。2013年9月主人の就職と末っ子が幼稚園に通い始めたのを機に復帰しました。しばらくは静岡で暮らせそうなので、遅ればせながら入会させていただきました。現在、非常勤産業医3名、男性保健師をリーダーに女性保健師2名の計3名の体制で、2拠点約2300人

(三島;MFP 設計開発及びインクジェット製造、大仁;POS システム開発・組立等)が健康に安全に仕事ができるようお手伝いしています。東芝グループの心・脳血管疾患予防を重点施策として全員面談実施のほか、メンタルヘルス不調者へのアプローチに力を入れています。ちなみに、有機溶剤、特化物等の取扱いや夜勤交替勤務もあり、産業保健を広く学べる会社だと思います。

最後に、育児と就業の両立はまだまだ困難を感じます。末っ子は小学3年生となり手が離れてきましたが、急病やインフルエンザによる学級閉鎖時等のお休みも多く、面談日程の調整など保健師さんに迷惑をかけてしまっています。また、放課後児童クラブのお迎えの都合で、興味深い研究会やその後の交流会に参加できずに失礼ばかりしています。本当に人に恵まれていることを感謝し、今後も従業員さん、会社のために微力ながら還元していきたいと思います。

事務局から

平成 29 年度 第 2 回総会決議から

- 1, 第 2 回 総会を 11 月 12 日 (土) に名古屋市で開催 した。
- 2, 平成30年度事業計画案、平成30年度予算案が承認された。

地方会理事会

平成 29 年度第 2 回理事会

日時: 平成29年10月14日(土)10:00-11:40 場所: 中部大学名古屋キャンパス 6階ホール

【議題】

- 1. 前回理事会議事録(案)の確認
- ||. 協議事項

1) 平成 29 年度総会 (11 月) について 2) 平成 30 年度活動計画について 3) 平成 30 年度地方会予 算案について 4) 地方会ニュース印刷業者変更について 5) 会員の学会登録メールアドレス確認のお願いについて 6) 各部会、委員会、研究会の会計管理について 7) 理事会参加時における交通費について 8) 学術研究支援制度について 9) 表彰制度

推薦委員会の役割について 10) 選挙制度改革について 11) 地方会連携検討委員会、および『理事長と話そう会』について 12) 次回の理事会日程について 13) その他:講師謝金の原則について

Ⅲ.報告事項

1)第30回産業保健スタッフのための研修会準備報告2)平成29年度総会ならびに研修会開催報告3)平成29年度地方会学会準備状況4)本部理事会報告5)地方会事務局報告6)地方会活動方針検討委員会7)学術研究推進委員会8)編集委員会9)研修会企画委員会10)表彰制度推薦委員会11)部会・研究会12)各県の活動報告13)その他報告事項(愛知県医師会等)14)関連学会等開催情報15)その他

会員の異動

(※は学生会員を表す)

【新入・再入会員】

愛知①三木 理(㈱豊田自動織機)②渡辺 香保里(マリンクリニック)③塚田 美代(マリンクリニック)④平野 綾(東京海上日動火災保険㈱)⑤豊田

将之(八千代病院)⑥水田 百香(新日鐵住金㈱) ⑦大須賀 淳(東海旅客鉄道㈱)⑧伊藤 祐一(名 古屋掖済会病院)

- 三重①阪田 研一郎 (東ソー株) ②中村 燈喜 (在南アフリカ共和国 日本国大使館) ③伊藤 典子 (三重県産業衛生協会) ④森田 明美 (三重大学大学院医学系研究科 公衆衛生・産業医学分野)
- 静岡①豊田 太(聖隷健康診断センター)②岩間 真人 (静岡県御殿場健康福祉センター)③原 里美(矢 崎総業㈱)④白岩 幹正(矢崎部品㈱)⑤熊岡 浩 子(本田技研工業㈱)⑥田中 遥(聖隷浜松病院) ⑦加藤 佳澄(ヤマハ㈱)⑧齊藤 裕子※(静岡県 立大学 薬食生命科学総合学府博士前期課程環境 科学専攻)

【転入会員】

愛知①尾本 大輔(三菱重工 飛島健康管理室) 九州より 12服部 理裕(東尾張病院) 九州より

三重①松井 智美(古河電気工業㈱)三重事業所)四国 より②道井 聡史(本田技研工業㈱)鈴鹿製作所) 九州より

【地方会内異動】

愛知→静岡①小澤 福示郎 (スズキ株))

【退会会員】

愛知①青木 静代 (亀の井医院) ②明神 洋子 (パナソ

ニックエコソリューションズ住宅設備㈱) ③丹羽 文子(名古屋市職員共済組合)

静岡①古橋 啓子(聖隷健康診断センター)②久間 昭 寛(東海旅客鉄道㈱)③加藤 綾子(矢崎総業㈱)

【転出会員】

静岡①窪田 誠 (三菱電機㈱) 北海道へ

これからの行事予定

第30回産業保健スタッフのための研修会

日時: 平成30年1月27日(土)13:00~16:30

場所:安保ホール

テーマ:海外勤務者の健康管理

平成 29 年度 東海地方会産業医部会懇話会

日時:平成30年3月10日(土)13:30~17:00

場所:ウィンク愛知 1207 会議室

特別講演:「産業医活動と衛生学、公衆衛生学」

第 91 回日本産業衛生学会

日時: 平成30年5月16日(水)~5月19日(土)

場所:熊本市民会館

テーマ: 悠なる産業保健 - 人と科学技術の連鎖 -

編集後記

平成 29 年度全国労働衛生週間のスローガンは「働き方改革で見直そうみんなが輝く健康職場」でした。「一億総活躍社会」での働き方改革の一つの事項として長時間労働是正が掲げられています。さらに、労働時間等見直しガイドラインも改正され本年 10 月から適用されています。改正された同指針では、長時間労働を解消して個人生活の尊重を図ることや有給休暇の活用が訴えられています。国が長時間労働に一層の努力をもって対応しようとする点には共感しますが、今後どこまで踏み込んで有効な対策がとれるのか、産業疲労を学ぶ者としていささか疑念を感じる今日この頃です。

中部大学 城 憲秀

東海地方会ニュース

編集委員長 :池田友紀子(キヤノン)

副編集委員長: 西谷 直子(椙山女学園大学)編集委員 : 赤津 順一(日本予防医学協会)

榎原 毅(名古屋市立大学)

河南 文子 (富士電機)

後藤 由紀 (四日市看護医療大学)

近藤 祥(聖隷健康診断センター) 榊原 洋子(愛知教育大学)

菅沼要一郎 (浜松ホトニクス)

城 憲秀(中部大学) 山本 誠(ヤマハ)

東海地方会事務局

〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田 3-3-10 梅田ダイビル 4F 株式会社 JTB コミュニケーションデザイン ミーティング & コンベンション事業部内

FAX: 06-6456-4105 E-mail: jsoh-tokai@jtbcom.co.jp

印刷・製本

〒675-0055 兵庫県加古川市東神吉町西井ノ口 601-1 有限会社トータルマップ

TEL: 079-433-8081 FAX: 079-433-3718